

午後 4時00分 再開

○議長（石川交三君） 再開いたします。

3番松浦真議員の発言を許します。3番松浦真議員

○3番（松浦真君） 3番松浦真です。今から、4時から5時の最後の一般質問をさせていただきます。よろしくお願いいたします。

本日の一般質問には、後ろのほうにですが、小学生の子供たちも議会の傍聴に来ていております。まさに3月議会でも質問、提案させていただいた子ども議会になっているのではないかと思い、素直にありがたい気持ちで一杯です。

そして、まずこれまでの3回のワクチン接種に携わってくださった、住民の健康を守ってこられた健康福祉課の皆様にも改めて感謝申し上げたいと思います。高齢者や一部の方には4回目のワクチンも今後始まりますが、ワクチン接種も始まりますが、引き続きよろしくお願いいたします。

さて、私が議員1期目の2年間で過ぎ、今3年目を迎えようとしております。この期間はコロナ禍ということもあり、外出自粛も県から制限がありましたこと、伝えられてきたことから、議会傍聴も制限付きでの参加となっております。ただ、秋田県のコロナ感染警戒レベルが今年4月26日にレベル2になってからは、感染に注意しながらとはなりますが、県外含め外出を行うことができるようになりました。そして、本日も一定の制限はありますが、議会に傍聴に来られる方がたくさんおられます。議会は、傍聴に来られるとですね、議会はもちろん、町の行政のチェックを直接議会という場でしてもらうことができます。それは、議員としても、そして町としても、町民に見てもらえるってことは何よりありがたいことだと感じています。様々な年齢の人が活躍できる風通しのよい町になるために議会改革と行政改革が共に進むよう、本日の一般質問をさせていただきます。

それでは、通告に従って1つ目の質問に行きます。タブレット利用の現状と今後に向けてという質問にさせていただきます。

小学生が現在学校で利用してたり、週末もしくは長期休暇中に持ち帰ることもできるタブレット、ノートPCですね、小さなノートPCの利用について、昨日の行政報告にもありましたが、ICT支援員の方が本年4月から従事され、小中学校の学校に理由があって行けない、もしくは行かない生徒と、朝会、朝のミーティングを行うなど、積極的な利用が今年度から見られております。また、町外の不登校支援を行うオンラインの

スクーリング機関との生徒情報の共有など、出席扱いも含め進めてくださっていることは、コロナ禍を経て前向きな教育の進化だと考えております。一方で、ICT支援員の方がこれまでも生徒からの信頼を得て、関係性が構築できる人だからこそ取り組んでいる部分もあるのでないでしょうか。今後のICT利活用がICT支援員の担当者によって大きく変わることはないよう、初年度から引き継ぎや俗人的にならないICT利用・活用体制構築のために、ICT利活用や人材登用の質問をさせていただきます。

(1) 令和3年の小中学校でのタブレット利用状況はどうだったでしょうか。週末の持ち帰り率、利用しての授業時間数など、KPIの達成率などを、昨年的一般質問でも聞かせていただき、具体的な数値ありましたと思いますので、その目標数値、達成状況及び現状の課題について答弁をお願いします。

○議長（石川交三君） 執行部の答弁を求めます。畑澤教育長

○教育長（畑澤政信君） 3番松浦議員のご質問にお答えいたします。

はじめに、令和3年度のタブレットの利用状況についてであります。

小学校は月2回、中学校は月1回、そのほかに小中学校とも冬季休業中に持ち帰りを実施しております。持ち帰りによる家庭での活用は、eライブラリでの復習や予習が主な内容となっております。

次に、授業等での活用状況についてであります。小学校では、SKYMENUを使った演習問題、教科書のQRコードの視聴、調べ学習でのウェブ検索などで活用しております。中学校では、資料の作成や発表、合唱曲の配布、解き方の発表、体育の動作撮影、植物の観察記録などで活用しております。また、単元以外でもグループワークの発表、アンケート、オンラインでZoomによる企業ガイダンスなどを行っております。Teamsを使い、3年生を送る会の動画配信などの活用も行っております。

小中学校では、1人1台端末の配布によりICT教育の推進に努め、様々な取り組みを行ってまいりましたが、令和3年度の1日当たりの授業におけるタブレット端末の活用時間は、小学校が1時間、中学校が1.4時間となっており、令和3年度においては当初の目標を達成することはできませんでしたが、ICT活用に対する意識の高まりが見られるなど、タブレット端末の活用例の積み重ねにより目標に近づきつつあると考えております。

次に、令和4年度についてであります。小中学校で文部科学省の実証事業により一部の教科でデジタル教科書を導入しておりますので、これを活用することにより利用率

も上がることを期待しております。また、ICT支援員を配置したことにより、充実した活用ができるのではないかと考えております。

町の教育委員会としては、今後も先進的な取り組みに対する情報収集に努め、あらゆる場面でICTの有効活用を進めてまいります。使うことが目的化しないように注視してまいります。タブレットの活用は、児童生徒が主体的に必要なに応じて文房具のように使えることが望ましいと考えており、あくまでも授業のねらいを達成するための効果的で有効な道具として活用してもらいたいと考えているところであります。

以上でございます。

○議長（石川交三君） 3番松浦議員

○3番（松浦真君） ありがとうございます。先ほど、時間数だけではなく、質を求めることも重要だという話がありましたが、令和3年度から令和4年に向けて、よりその質であったりとか、タブレットを文房具のようにたどえられておられましたが、文房具のように使うことによって、もちろんお話にありました授業の先生がどのように学校内で教えるかということももちろんなんです。生徒は持ち帰った時に、プログラミングであったり、ゲームをするだけじゃなくて作るということも学ぶことができます。後ろに今小学生がいるんですけども、例えばマイクラフトとかプログラミング、まあスクラッチとか、プログラミングをゲームを通じて学ぶなど、様々な文房具も、テストの点数を上げるだけだけの目的じゃない利用が、本を借りたり、小説を書いたりすることができるように、様々なICTの取り組みありますので、ぜひそういうところも柔軟に令和4年度に向けて取り組んでいただけたらと思います。

子供たちもぜひその使い方を提案できるようなものが、次の質問につながるんですけども、e-board（イーボード）とかに関してはそういうふうな掲示板機能であったり、先生に意見を伝えるような機能もあります。現状のeライブラリや、もう一つのスカイのやつの機能は、おそらくその授業の内容を把握するというものどうしても消費者型になってしまいますので、そのようなものを、より双方のコミュニケーションができるようなアプリも考えていく必要があるかなと思います。

ちょっともう2番の質問に続きますが、そのような現状の教育アプリの利用状況、先ほど使っているとありましたが、実際に利用している率、あとは各生徒における利用時間数、平均をとるというよりは、その分布がどのようになっているのか。現状のアプリのスカイの利用時間数などから何か動向、生徒からの動向などか見えておれば教えてくだ

さいということと、それらを踏まえて他市町村のICT教育先進事例も、コロナが2年過ぎております。ぜひ小金井市とか熊本市とか様々なICT進んでる自治体もありますので、広島県とか、そういうところの事例をぜひ視察、意見交換などをしていただけたらと思いますが、その事例や今後の予定はありますでしょうか。

○議長（石川交三君） 畑澤教育長

○教育長（畑澤政信君） お答えいたします。

松浦議員からは、ICTを活用した無償の教育ツールなどをご提案いただき、感謝申し上げます。ご提案いただいた教材などについては、今後、学校やICT支援員と情報を共有し、活用について検討してまいります。

ご提案の中にもありましたeライブラリについては、以前からも授業や端末持ち帰りの家庭学習で利用しております。また、必要に応じて他のウェブ版のアプリも使用できますが、個々のタブレットにはフィルターをかけているため、児童生徒がタブレットを自由に設定できない仕組みになっております。

次に、現状の教育アプリの利用状況ですが、学習教材やコミュニケーションツール、プレゼンテーションツールなどを使って総合的な学習の時間や持ち帰り学習に活用しております。

また、町長の行政報告でもあったとおり、今年度の新たな取り組みとして、やむを得ず登校できない児童生徒の支援として、タブレットからマイクロソフトのTeamsで自宅にいる児童生徒と学校を相互通信でつなげる支援もICT支援員と進めているところであります。

なお、秋田県の取り組みでも無償で教材が活用できる「わか杉学びネット」がホームページで公開されております。小中学校の各教科の学習支援ソフトや問題集、教員向けの情報などが公表されておりますので、学校側にも情報を提供しております。

次に、他市町村のICT教育事例についてであります。秋田県教育委員会では、ICTを活用した授業改善支援事業の支援校である県内の小中学校6校の具体的な取り組みや成果と課題等についてまとめられたものが公表されております。各支援校の取り組みは、ICT教育を推進する上で大変参考になるものであり、好事例については本町の小中学校とも共有し、実践するとともに、教育委員会としても先進校の視察も考えていきたいというふうに思っております。

文部科学省が目指すべき次世代の学校、教育現場として掲げている教育スタイルであ

る個別最適化された学びの実現に向け、今後もICTツールを新しい文房具として活用できるように取り組んでまいります。

以上でございます。

○議長（石川交三君） 3番松浦議員

○3番（松浦真君） ありがとうございます。県内でも、秋田県でもライフイズテックというプログラミングを中高生が学ぶプログラムがありまして、それは小学生でもできるという幅広いプログラムになってます。それも導入が進んでいると聞いておりますので、ぜひ県のほうの先進事例を参考にどんどん事例を進めていただければと思います。

3番目に行きます。東京都世田谷区では、これ民間企業のサイボウズと、最初はみずほ銀行にいたらしいんですけど、その後、サイボウズの役員をされた方がDX担当の世田谷区の副区長として就任されることになりました。松村克彦という方が本年6月から新規採用されております。で、五城目町でも現在ある地域資源をより活用していくためにも、民間の経験者やDX経験者を活用し、積極的なDX推進を図るべくDX担当者の民間採用を進めるべきではないでしょうか。また、民間経験者の活用を既に進めている秋田県のDX戦略本部との連携などは進んでいるでしょうか。私、個人的にDX戦略本部の推進監の方とも一度Zoomでお話しさせていただいたり、この松村さんとも先日、メッセージでやりとりさせていただいたんですが、五城目町にとっても期待しているという声はたくさんいただきました。ですので、ぜひ町のDX推進に向けてもKPI策定など具体的に進めていただきたいですし、現状と今後の対応はどうなってるのでしょうかということを質問させていただきます。

○議長（石川交三君） 渡邊町長

○町長（渡邊彦兵衛君） 3番松浦議員のご質問にお答えいたします。

ご質問にあるDX担当者の民間採用につきましては、国によるデジタル人材の確保事業への財政的支援及び一般社団法人全国地域情報化推進協会による地域情報化アドバイザー派遣事業の活用などが考えられます。また、人材育成として職員研修などもメニュー化されているところであります。

町の現状といたしましては、庁内業務改善のための課題抽出に向けた準備段階であり、今後、DX推進体制の構築に向け、必要に応じて人材確保・育成事業を活用してまいります。

また、秋田県DX戦略本部との連携につきましては、DX推進に関する支援、情報提

供に加え、令和3年度から引き続き秋田県主催の高齢者向けのスマートフォン教室を実施しております。

国では、DX推進のビジョンとして、「デジタルの活用により、一人ひとりのニーズに合ったサービスを選ぶことができる社会～誰一人取り残さない、人に優しいデジタル化～」を掲げており、デジタルの活用に不安のある方々を対象とした取り組みを今後も県と連携して実施してまいります。

町のDX推進計画については、策定に至っていない状況ではありますが、国が策定した自治体DX推進計画における重点取り組み事項である、自治体の情報システムの標準化・共通化及び自治体の行政手続きのオンライン化などについて、秋田県町村電算システム共同事業組合と連携し、検討を進めるとともに、マイナンバーカードの普及促進、セキュリティ対策の徹底、テレワーク導入の検証などに取り組んでいるところであり、KPI策定につきましては、今後、推進体制の構築の中で実施してまいります。

以上でございます。

○議長（石川交三君） 3番松浦議員

○3番（松浦真君） 先ほどのDXの話なんです、民間の活用は現在考えてないということが分かったのと、あとはDX自治体の標準システム、電算システム共有化とかマイナンバーカード、テレワーク導入というのは、実はこれ去年も総務課のほうにも質問させていただいて、DX推進とかRPA、ロボティックプロセスオートメーションとかの話をした時にも、現在必要ないという話がありました。1年たってもまだ準備をしている段階だという話で、なかなか進んでないのが実情です。千代田区と姉妹都市提携である五城目町が、今後、森林譲与税など千代田区との連携を進めていく上でも、DXの推進ができてるかどうかというのはたぶん問われていくのではないかと思います。

改めて質問しませんが、準備を進めていくだけではなくて、具体的に何をKPIとして出すのか、ぜひ出していただきたいなと思います。このままではDXがこの町にはないという状況が続いていくのではないかなと懸念してしまいます。

その上で一つ質問をさせてください。このDX推進に取り組む上で、DXも先ほどのタブレットと同じようにあくまでも文房具等のツールです。で、そのツールを使って行すべきなのは風通しの良い組織づくりが主になります。そしてそれによって町民の期待に応えたり、サービス向上を目指すということが大事ですが、この松村さんは民間事業者にいた際に、昼食時に、管理職だった経験の中で自ら昼食を一緒に食べようと、いろ

んな垣根を越えて雑談という時間を用意し、若い職員と積極的に仕事以外のことも含む風通しの良い環境づくりを取り組まれてこられたとウェブ記事に紹介されていました。そして、五城目町では3月末で残念ながら食堂がなくなり、職員同士の会話が、今日もちょっと見てもらったんですけど、自席中心になっていると。まあもちろん外に食べに行く人もいると思うんですが、自席中心となっており、垣根を越えた対話の機会が昼食時に減ってるのではないかと危惧します。

そこで質問です。

昼食時に限らずですが、飲み会ではなくて昼食時などに管理職が若手職員とざっくばらんに会話をし、組織の風土を風通しの良い状況にするための取り組みはありますでしょうか。また、そのような風通しの良い取り組みを行う際にこそ、DXやICTを活用して行うということがツールとして大事じゃないかと考えるんですが、そういうふうな考えはありますでしょうか。町の考えをお聞かせください。

○議長（石川交三君） 執行部、答弁者は。渡邊町長

○町長（渡邊彦兵衛君） お答え申し上げます。

現在、DXの推進は至ってないということですが、今、先ほど議員のおっしゃった、いわばコミュニケーションのその充実だと思うんですけども、まあ庁内で朝の1週間の必ず月曜日には庁議というそういうような会議も設けましてですね、いろんな情報を共有していく場ということでもあります。また、さっきご承知のとおり、互助会の食堂がなくなったということですが、あそこが唯一のコミュニケーションの場かなと、こう思ってたんですけども、この後ですね、いろいろ議員からもそのご指導いただきながら、様々なそのようなDX推進に向けまして頑張りたいと思いますので、一層ご指導のほどお願いしたいと思います。

以上でございます。

○議長（石川交三君） 3番松浦議員

○3番（松浦真君） ありがとうございます。五城目の中にある町民の中には、様々なDXの経験とか、ベンダーで働いておられる方もいらっしゃいますので、そういう力も含めて活用していくことを、風通しの良い役場もそうですし、風通しの良いまちづくりの中でも実践していただけたらと思いますのでぜひ引き続きよろしくお願いします。

では次、大きく2番の質問に行きます。太陽光パネルなどの設置に条例をということで、エネルギー施策については荒川滋議員の質問でもお話がございました。そして木質

バイオマス発電などを進めていくという話もありましたが、これまではイニシャルコストが高く、チップ加工やそういうものを地域外で依存するケースも多々ありました。また、林業が着実に機能して数十年維持できないと、その状況もなかなか維持継続するのが難しいということで、1kW当たりの導入コストが、これまでは100万円かかっていました、木質バイオマス発電は。しかし、太陽光パネルは中国などの技術革新や価格競争が広がりまして、1kW当たり20万円前後で導入が今可能になっています。5分の1になっています。その一方で、安価な太陽光パネル導入が進むと、その維持管理にかかる費用を削減する民間業者も増え、全国的に問題が発生しています。

そこで、旧恋地スキー場に行くまでに通るトンネルを過ぎた場所にある太陽光パネルが今冬の積雪により破損しております。ちょっと写真を撮ってきたので、こんなぐらい、結構、見えますかね、結構大きく破壊されてまして、冬の2月から破損して、かなり、これ最新のやつですね。結構緑にそのままなつて汚く、まあ汚いっていうか、もう破損した状態になっています。で、このような状況を考えると、清流の森や近隣に通う人たちにとって景観的にも改善すべきでないかと考えますが、町としての対応はどうなつてますでしょうか。

○議長（石川交三君） 渡邊町長

○町長（渡邊彦兵衛君） お答えいたします。

ご指摘のあった破損した太陽光パネルにつきましては、馬場目字関ヶ沢地内にある太陽光パネルと思われていますが、現地確認した結果、設置されている4か所のうち2か所がほぼ全壊している状況でありました。5月13日には、恋地町内会長からも景観の悪化や破損したパネルの飛散などについての相談がありまして、設置事業者についての情報収集を行ったところであります。6月1日に設置事業者に電話いたしまして、今後の対応などについて確認したところ、太陽光パネルを設置したのは昨年秋頃とのことであり、雪解け後に稼働を開始する予定でありましたが、春先に現地確認した際に破損が確認されたとのことでありました。破損した太陽光パネルについては、5月31日から撤去作業に着手しているとのことで、6月中には撤去作業を終えるという回答でございました。町では、撤去作業の着手を現地で確認し、相談のありました恋地町内会長に対しましては、設置事業者の対応などについてご報告をしております。

以上でございます。

○議長（石川交三君） 3番松浦議員

○3番（松浦真君） ありがとうございます。6月1日、実際に撤去の導入が進んだということですが、一応確認です。その撤去した後に、もう一度、その2か所壊れた部分はやり直すのか、それとも撤去したまま、その場所は空白にするのでしょうか。そのあたりはいかがでしょうか。

○議長（石川交三君） 小玉住民生活課長

○住民生活課長（小玉広信君） 松浦議員にお答えいたします。

先ほど町長が話されたとおり、4か所のうち2か所が全壊しております。それで、町内の中ほどの1か所が撤去終わりました、片付け終わりました、撤去作業はこの後ということになります。もう1か所も、この後、先ほど言いましたとおり6月中には撤去完了したいということを伺っております。それで、その2か所に関しましては、また再度設置いたしまして稼働するというのを伺っております。

以上であります。

○議長（石川交三君） 3番松浦議員

○3番（松浦真君） 再度設置するという事で、また、基本的に太陽光パネルっていうのは投資回収型モデルですので、設置されるのだと思うんですが、そうなる気になるのは今後のまた維持管理、また冬に積雪が多くなった時の危険性ということになります。

そこで2番の質問です。これはちょっとまた情報がどうなのかも含めて町から教えていただきたいんですが、トンネルを抜けて、ここの破損したところの側のトンネルの急斜面が今伐採されております。山がですね。そこに太陽光パネルを設置するという話も町民から聞きました。町民からは、土砂崩れなどが起きる可能性が、危険性が増し、またその土砂が流れ落ちて堆積した場合には、その下に河川もあることから、流域での洪水や家屋浸水などを危惧する声もありました。そして、今回の破損した場所はもともと農地だったそうなので、農地転用における農業委員会の許可があったそうで、その部分に関しては農業委員会の許可を出したそうなんですが、林業に関してはそのような委員会が存在せず、それも問題であるという声もあります。そして、まだ記憶に新しい熱海での土石流事件、土砂が、盛土がたくさんあって、その上に太陽光パネルがあった状態の場所だったんですが、そこでの関係性も指摘されてます。県内でも由利本荘や仙北市では、太陽光パネルを景観も含めて条例によるチェックをしておりますが、町としてもリスク削減に向けた条例制定などの動きをすべきではないでしょうか。町の考えを教え

てください。

○議長（石川交三君） 渡邊町長

○町長（渡邊彦兵衛君） お答えいたします。

森林は、水資源の涵養、災害の防止、環境の保全などの公益的機能を有しており、国民生活の安定と地域社会の健全な発展に寄与しております。このため、普通林の開発にあたっては、こうした森林の持つ機能が損なわれないように適正に行うための一定のルールがあり、林地を住宅造成、レジャー施設、工場、採石場、土捨て場や道路などに開発する場合は、都道府県知事の林地開発許可が必要となっております。トンネルを抜けた斜面につきましては、この許可申請が提出されていないことを確認しております。

また、ご質問にあります由利本荘市では、由利本荘市再生可能エネルギーの利用を目的とした施設の建設に関する手続きガイドラインを定め、市との調整手順を示しております。また、仙北市では、仙北市景観条例により良好な景観を守り育てようとしております。

太陽光発電設備などの設置を規制する単独条例は、全国で189の自治体により制定されておりますが、県内ではまだ制定されておらない状況となっております。本町におきましては、今年度、環境保全などに関する条例及び計画などを策定しようとして進めておきまして、これと合わせて先進地の事例を参考に町民の安全・安心に努めてまいります。

以上でございます。

○議長（石川交三君） 3番松浦議員

○3番（松浦真君） 先ほどありました、五城目町には環境保全条例がないということで、県内の25市町村の中で5か所だけ環境保全条例がない中の五城目町が一つだということが、先ほどまちづくり課長からお聞きしました。で、今年度既にその準備をするということで、視察も含めていろんな検証をされると思いますが、ぜひその先ほどのDXも含めた千代田区との森林譲与税の活用や、五城目にある資源となる森林を生かした様々なエネルギーであったり、防災対策も含めた総合的な施策を実現していただければと思いますので、よろしく願いいたします。

それでは、次に除雪会議の透明化についての質問を聞きたいと思います。

町民に向けた決定プロセスの透明化は、先ほどもお話しました風通しの良い町に必須な条件であると考えます。

そこで質問です。

今年の8月に行われます除雪会議に向けて、町民からの意見をオープンにすると3月

議会で町長の答弁がございました。これは、広報紙やホームページなどで除雪会議前に町民の声を集め、それらを具体的に改善をしていくという話を除雪会議内で図っていくということでよいのでしょうか。

また、この意見を集める際にも、紙だけではなく、DX、ICTを意識した意見の集約化、時系列のチェックも含めて確認をしていくなど、例えばですが、グーグルフォームなど無償のツールを使いながら、少しずつでも事例を五城目町で増やしていくような具体的なアプローチが必要と考えます。町の対応はどのようになっていますでしょうか。

○議長（石川交三君） 渡邊町長

○町長（渡邊彦兵衛君） お答えいたします。

町民からの意見をオープンにする方法といたしまして、令和4年5月23日に除雪課題検討会を開催をいたしまして、前年度寄せられた要望、また苦情などを業者へ伝え、その反省点や改善策などを話し合い、業者からは作業効率向上のための方法などの意見をもらい、協議し、その内容を取りまとめて6月1日から町のホームページで公開しております。

また、町民の声を集約する手段といたしましては、8番畑澤議員からのご質問にも答弁いたしましたが、無料通信アプリを活用し、道路破損などに限らず、除雪作業に対する意見提案、情報収集にも役立てればと、こう考えております。

以上でございます。

○議長（石川交三君） 3番松浦議員

○3番（松浦真君） ありがとうございます。確認ですが、今お話あった除雪課題検討会を5月23日に行った結果、作業効率向上やその課題に対する整理を行ったものがウェブのページに6月1日に公開されてるとお話しありましたが、ちょっとパッと見たところないんです。私は探せないんですけど、ニュースのところ、新着情報にあるのでしょうか。

○議長（石川交三君） 猿田建設課長

○建設課長（猿田弘巳君） 松浦議員にお答えいたします。

町のホームページ「暮らし手続き」をお開きください。その中から「住まい・道路」を選択いたします。その上から2番目「除雪課題検討会開催について」という部分です。

○3番（松浦真君） 分かりました。

○建設課長（猿田弘巳君） 以上です。

○議長（石川交三君） 3番松浦議員

○3番（松浦真君） あ、ありましたが、ぜひ、もしあるということ、せつかく情報として公開されてますので、新着記事の6月1日のところにもニュースがあったほうが、結構奥にありますので探すことが難しいのかなと思いますし、これを含めて、ちょっと内容はまだ全部把握はしてないんですけども、これらに基づいて町民が具体的に今後の、今年の冬、もし万が一、20年間の除雪、雪の量のかかった費用の中でも去年が2番目に多かった年でもありましたし、今年もどうなるか分からない中で、この議事録を含めて町民が風通しの良い町だなど、除雪はこの町は頑張ってるなという変化を見れるものかどうかということもまた町民に確認していきながら、よりよい8月の除雪会議に向けて意見を広げていってほしいなと思います。

では、除雪会議は以上にします。

次、4番の小学校跡地活用に向けてということで、ちょっと時間がないので飛ばしながらいきます。

全員協議会で五城目町あさひ台運動広場設置条例案が提出されました。設置目的は、五城目町民のスポーツを通じた健康増進及び憩い場を望むとされておりました。健康増進及びスポーツ振興はもちろん町民にとって重要ですが、しかし、先ほどお話、答弁にありましたとおり、朝市500周年記念マラソンがなくなるなど、五城目町内だけを見ると、人口動態の影響によりスポーツ人口は今後確実に減ってしまいます。そこで、町内のスポーツや健康増進だけではなく、未来に向けて町外もしくは県外の様々な人材との協力や千代田区との協働、森林譲与税の柔軟な活用などを含めて考えていくことが必要ではないでしょうか。

そこで質問です。

小学校跡地の利活用は、時間や雨天時のルールを決めて町民の利活用を推進するというものでありましたが、KPIの設定がなく、また今後も継続する初年度450万円、次年度以降200万円の予算に対して具体的なメリットがなかなか見えないのではないのでしょうか。健康増進や憩いの場として何人の町民、もしくは何人の町外の人がどのような変化を望んでいると設定し、本予算を計上するのか、町の考えをお聞かせください。

○議長（石川交三君） 畑澤教育長

○教育長（畑澤政信君） お答えいたします。

小学校跡地の利活用については、運場広場として活用できるよう早めに開放し、町民

の皆様健康増進や憩いの場として使っていただきたいと考えております。

利用にあたっては、クマ対策の飲食禁止、森林に近いことから火気厳禁、住宅に近いことから地域に迷惑をかけないことなどの制限のみで、自由に使ってもらいたいと思って想定しております。

また、公共施設として景観維持に努めるための管理費を計上させていただいており、利用者や地域住民へのご理解を求めるものであります。

利用者数等に対するK P Iについてであります。まずは利用者にとって親しみやすく利用してもらうことを前提としております。利用にあたり、飲食や火気、迷惑行為等以外の条件を設定していないこともありますので、今後の利用状況を踏まえて考えてまいりたいと思っておりますので、ご理解をお願いいたします。

以上でございます。

○議長（石川交三君） 3番松浦議員

○3番（松浦真君） 今後の利用状況を踏まえて考えるということですが、「わーくる」の時もちろん実際に蓋を開けてみないとどれぐらい入るか分からないということはありませんが、「わーくる」では図書館を使って町と学校の憩いの場にしていって、まず接続していく、つなげるということも、越えるという話もありましたが、この跡地もぜひ、まあ450万円使いつつ、今後も200万円使うことがもう間違いなくあるので、どのようなコンセプトでやっていくのかということ、ぜひK P Iを立てにくい中でも考えていただけたらと思います。なので重点的な健康増進として町は何を選ぶのかなど、ぜひそのめりはりをつけた予算の活用と場所の活用をしていただきたいと思っております。

次に、雑誌「CREA」の「いつか行きたい！日本の春の絶景 心和む“棚田・田園風景”12選」に森山からの景色が選ばれました。この観光資源を、素晴らしい観光資源だと思います。これを活用するアイデアを町としてもさらに発揮してほしいと思っておりますが、その麓にあるこの場所も含めて、町としての考えはいかがでしょうか。

○議長（石川交三君） 渡邊町長

○町長（渡邊彦兵衛君） お答えいたします。

森山は、秋田平野から続く湖東平野に突如として300m級の山がそびえ立ち、その眺望からまさに町民のシンボルとして町民に親しまれているところであり、また、通信事業者が管理する道路を利用して第二高地へ登山するルートは高齢者にも容易に登頂でき、山頂からの眺望は、この時期の水の張られた田んぼや秋田市中心までも見渡せるこ

ともあって、近年、その素晴らしい魅力が広がっていると認識しておるところでございます。町といたしましても、更に情報を発信し、町内外からの誘客を図ってまいりますし、また、五城目町観光物産協会においては、本年度新規事業として新たな観光資源の発掘を目指していることを伺っておりますので、町といたしましても連携の上、森山に限らず、豊富な観光資源を有する当町の魅力の発掘に努めたいと考えております。

一方、最も登りやすいとされる管理道が通行止めとなっていることから、管理道以外の登山道を有志団体と連携して整備し、登山で楽しんだ後の食事、また汗をかいた後の温泉、お土産を朝市で購入といったような、既存の観光資源を最大限に使った取り組みにも努めてまいりたいと存じます。

以上でございます。

○議長（石川交三君） 3番松浦議員

○3番（松浦真君） 管理道以外の登山道整備もということがお話しありましたが、これを実施されてる民間の方にも本当に感謝申し上げたいと思いますし、その気持ちをもとに町民や町外の方も森山を大事にしていくことで観光資源がより人気になっていくのかなと考えますので、引き続きお願いいたします。

3番目です。昨今、そのようにキャンプ地や登山など含めて注目されておりますが、時代のニーズに応じた新しい観光策や事業プランを考える必要があると考えます。これまでは役場内だけでアイデアを考えていると思いますが、最近だとスノーピークとか様々なキャンプ、トレッキング、そういう業者も増えております。そのような様々な民間業者の方の革新的なアイデアを生かしながら、県外や国外の事業者、専門家を入れながら話す会議体の設立はできないものでしょうか。町の考えは。

○議長（石川交三君） 渡邊町長

○町長（渡邊彦兵衛君） お答えいたします。

令和4年3月に秋田県観光振興ビジョンが策定され、当町を含む秋田地域振興局管内においては、暮らしから染み出てくる魅力のおすそ分けをコンセプトとした生活観光の推進が掲げられており、当町もこのビジョンと連携した展望を掲げてまいりたいと考えておるところでございます。

新たな会議体の設立についてのご提案につきましては、現在、当町には観光振興関係の団体として、観光業や飲食業、建築業、木工業、小売業など様々な分野で活躍され多角的な見地に立たれる方々より構成されております、五城目町観光物産協会の活動があ

ります。前段のご質問に対する答弁と重複いたしますが、この五城目町観光物産協会においては、本年度新たな観光資源の発掘を目指してとのことでありまして、町といたしましても連携の上、当町の魅力の発掘に努めてまいりたいと考えておりますし、また、現在、森山を拠点に活動している団体などから広くアイデアを募り、さらには地域活性化支援センターに入居する事業者と協力しながら、時代のニーズに応じた観光プランを模索してまいりたいと存じます。

以上でございます。

○議長（石川交三君） 3番松浦議員

○3番（松浦真君） 引き続き、観光物産協会を中心に新たな観光事業が発掘されて、それが結果となっていくということ、お話しありましたので、チェックしていきたいと思えます。

最後、4番目です。五城目町には数多くの関係人口が生まれています。私も最初は関係人口でこの町に来て、その後、移住を決めた者になります。ただ、最初はですね、やっぱりイベントだけで私も参加しました。で、その後続けて来る人もいますが、ほとんどの人はやっぱりその集めて終わりのパターンも多い状況になります。視察も含めて数多くの方が足を運んでいる中で、町としてより実践的に事業を起こす起業家の集客などに取り組んでいかないのでしょうか。町としてのこれまでの関係人口施策の振り返り、コロナもありましたが、どのようになっていますでしょうか。また、観光資源を生かす人材の採用やアプローチは進めないのか。先ほどの話にもちょっとつながりますが、改めてお願いします。

○議長（石川交三君） 渡邊町長

○町長（渡邊彦兵衛君） お答えいたします。

町では、平成27年から首都圏などを会場とする五城目ファンミーティングを開催いたしまして、関係人口施策を進めてまいりました。令和元年からは、町が設定する地域課題に興味を持つ方を招き、地域で活動する方々との関係構築を目指した事業を展開しておりましたが、このコロナ禍の影響もあり、継続的な関係構築には至っていない状況であります。

今年度は、森山を生かした関係人口創出事業、若者交流イベントを企画しておりますが、ご提案のありました起業家の集約や観光資源の活用などについては、次年度以降の関係人口施策の貴重なご意見とさせていただきます。

以上でございます。

○議長（石川交三君） 3番松浦議員

○3番（松浦真君） ありがとうございます。次年度以降も含め、コロナが落ち着いた後にすぐスタートダッシュできるように準備を進めていただけたらと思います。もちろん町民としても、私も大阪にいる友人であったり、ほかの都心部の友人にも五城目に来てくれるよう様々声かけをしていきたいと思っております。

最後の5番目の質問ですが、ちょっと時間がないので2つまとめて質問したいと思います。

救急車での秋田市内への搬送時間平均何分かということですが、五城目町消防本部は、日頃から大変活躍していただいております。特にSNSを利用した広報に関しては、私もいろいろ調べた、個人的な感想ですけども、東北の中でも有数のクオリティを持っておりまして、とてもレベルが高いと感じています。日々、防災意識、防火意識を高めてくださっている消防本部の皆様には感謝申し上げます。

そして、実際にこの11年間で変わったということも含めて、数字で表したいなと思って質問させていただきます。ただ、そのちょっと状況も変わっていると思うので、どの辺からなのか、ちょっと具体的に質問しながら確認したいと思います。

1番目、平成23年の一般質問の中で、98分、秋田市内への病院の平均搬送時間がかかるという答弁がございました。現在はどれくらい早くなっているのかということをお聞きしたいと思います。

2番目、脳卒中などで若くして亡くなる人も最近ニュースで多くあります。数分が重要な症状に対して、万が一救急車が出払っている場合、近隣の消防施設に応援要請で対応すると思いますが、多重発生する件数は、ここ5年ほどでどれくらいあるのでしょうか。

まとめて答弁をお願いいたします。

○議長（石川交三君） 渡邊町長

○町長（渡邊彦兵衛君） お答え申し上げます。

まず1つ目のご質問でございますが、令和3年中におきましては、秋田市内6つの医療機関へ326人を搬送し、出動から帰署するまでに要した平均出動時間は110分となっております。平均出動時間が延びた原因といたしましては、消防法の一部が平成21年に改正され、都道府県に対しまして、消防機関による傷病者の搬送及び医療機関に

よる当該傷病者の受入れの迅速かつ適切な実施を図るために、傷病者の搬送及び受入れの実施に関する基準を策定することが義務付けられ、本県においては平成23年3月に同基準を策定し、運用が開始されたことに伴い、本町からは距離的に最も近い秋田厚生医療センターへの搬送が他の医療機関へ分散されたことによるものと考えております。

2つ目のご質問でございますが、平成29年から令和3年までの間における救急出動の多重発生件数は119件で、うち14件について、近隣の湖東地区消防本部へ応援要請することで対応しております。また、同期間における湖東地区消防本部からの応援要請件数は6件となっております。

以上でございます。

○議長（石川交三君） 3番松浦議員

○3番（松浦真君） ありがとうございます。消防法が改正されたということで、たぶん受け入れて、その受け入れるところにまで時間がかかっているということですが、110分、2時間弱かかるので、もちろん地理的な条件とかもあると思うんですが、これが、まあ頑張っていた中で受け入れる病院側の問題もたぶんあると思いますし、いろんな課題があるのかなと思います。また委員会でも細かく確認していきたいと思えます。

全体を含めて、もうすぐ参議院選挙がございますが、18歳が成人年齢となっているものの、現状はまだ若者の投票率が低い状況が全国的に続いております。3月議会で提案しました子ども議会については、過去にも一般質問で議員の方が提案を行ってましたが、教育委員会でも答弁の中で、子ども議会開催に向けて検討を進めているとお話ありましたが、コロナが一段落した現在だからこそ、今ちょっと小中学生、まだいらっしゃいますね。平日に小中学生が社会見学としてこのような議会傍聴に来るなど、具体的な施策を考えていただきたいと思えます。傍聴者が増えて議会が軽薄なものになることは絶対避けるべきですが、一方で、議会が難しい、堅苦しい、近寄りがたいというものになることは、さらによくないことじゃないかと考えます。若者の政治参加を増やすためにも、このような機会を見ていただき、そして議会や政治はおもしろい、意義があると感じて関心を持ってもらい、傍聴を増やす、そして傍聴後の対話を増やすなど、議会も執行部も共に魅力ある五城目町を目指していくために、お互いにこれまでにない改革を進めていきたいと思えます。引き続きよろしくお願ひします。

それでは、一般質問を終わりたいと思えます。

○議長（石川交三君） 3番松浦真議員の一般質問は終了いたしました。

以上で本日の会議は全部終了いたしました。

本日は、これにて散会いたします。ご苦労様でした。

---

午後 5時00分 散会